

第1回 水環境マネジメント検討会 議事要旨

日時 平成24年8月16日 13:30～16:00

場所 日本下水道協会大会議室

(1) 委員長選任

冒頭、委員互選により田中宏明委員が委員長に選任された。

(2) 検討会の公開について

検討会は原則公開することで委員了承された。

(3) 議事要旨

事務局、各委員からの話題提供の後、議論頂いた。委員からの主な意見は以下のとおり。

○高度処理の推進と放流先の状況に応じた下水道の能動的管理について

- ・水質の状況に応じた特性はノリの養殖だけでなく、多面的にみる必要がある。
- ・東京都と兵庫県の事例は、現行の流域別下水道整備総合計画（以下、流総計画という。）の中でできる行政の最大限の対応と考えられる。現在の流総計画は、水質環境基準を達成維持するための処理施設整備の総合計画ともいえる内容となっている。今後は下水道事業全体（集める、排除する、処理する、還元する）を含む計画策定に役立つものとするべきである。
- ・ノリの色落ちはDINの影響だけなのか、科学的な知見をもとに判断する必要がある。流総計画の見直しの中では、下水道がやるべき内容について明確化すべきである。
- ・地先毎で処理場の処理レベルを変える場合、費用負担が地先毎でまちまちになることが問題である。また、国家レベルの戦略水域では、国と自治体の費用分担を検討すべきである。高度処理が進まない理由は、費用負担が大きな要因と考えられる。
- ・窒素は有効利用できないが、リンは有効利用できる。地先に応じた対応というのは、窒素を対象とし、リンは国家戦略として収集すべきではないか。
- ・流総計画は施設配置を決めるが、運用方法は現場対応で構わないのであれば、運用は自由なので性能基準を定めれば現場で対応できるのではないか。
- ・地域特性に応じて柔軟に高度処理を導入するとした場合に、既に費用をかけて高度処理を実施しているところについて配慮が必要である。地先毎の高度処理進捗バランスに考慮すべき。
- ・高度処理がかなり進んでいる自治体もあるため、流総計画の策定内容が見直しされた場合もこれまでの計画との継続性を重視すべきである。また、今後は人口減少により施設能力の活用が可能となり、高度処理を導入しやすい状況となることから、社会に真に必要な高度処理を進めていくべきである。

・これまでは、とにかく水をきれいにするために下水道事業に取り組んできたが、最近の瀬戸内海の状況を見ると、きれいにしすぎたのではないかという恐れがある。よって、水域によって高度処理の在り方は異なると考える。

○下水道以外の負荷が大きい水域への対応と事業の優先度に配慮した現実的で柔軟な計画づくりについて

・今後も流総計画を下水道部局だけで作成していくことは下水道部局の負担が大きい。実際の中身は水環境マネジメント・流域管理の在り方も含まれているため、下水道だけではなく、環境部局も含めて流域管理ツールとして作成する必要がある。

・流総計画の策定の場合、環境基準を達成するための計画策定の場合としてだけでなく、各流域の関係者（行政だけではなく、漁業関係者等の民間も含めて）の利害を調整する場として活用し、流域を今後どのようにマネジメントしていくべきかを議論する必要がある。

・流総計画は20年先を目標とした計画である、また、法令上の規定を遵守することを前提として、東京湾は直轄流総で定められた許容負荷量を満足するためには、東京都の全処理場についてA20法+砂ろ過を導入する必要がある。しかし高度処理導入には大きな費用が必要となるため、20年間での施設整備が困難であることから、運転方法の工夫や軽微な改造等の現在実施できる事を進めている。20年先の姿も大事だが、柔軟性も必要である。

・単に計画を策定し実施するだけではなく、どのように改善しているか「見える化」を行ってマネジメントする体制を、流総計画の策定する場を活用して構築すべきである。

○流域全体での資源・エネルギーの最適管理について

・流総計画は、様々な課題があるがこれまで十分に役割を果たしたという面もある。よって、現在の大きな基本方針は残しつつ、水質についてのみ議論するのではなく、エネルギーや資源化についても流域単位で集まって議論する場として活用するべきである。

・地道な省エネ・創エネは現在実施されている。水を中心としたスマート化（効率化）を実施するには、どうするべきかを議論する必要がある。都市の中での水の最適な配置について、処理施設だけではなく、利用も含めて考えてはどうか。ライフサイクルコストの視点も必要である。

・資源・エネルギーの最適管理と高度処理導入とはトレードオフの関係にある。水の位置エネルギー、量、化学エネルギーについて総合的に考える必要がある。

・エネルギーは地産地消であるが、一方、リン（物質）は出る場所と使う場所が違うので、流域全体で考える利点がある。

○次回以降、頂いたご意見を踏まえ、議論を深めていくこととなった。